

村田町長 「組織解消後も発展を期待」

「一色小地区は例外」 町のバックアップなし？

地域再生協議会は11月1日(日)、第5回目の拡大部会長会議を開き、「再生協解消以後の地域活動」をテーマに村田邦子町長との意見交換(移動町長室)を行った。これまでの議論の要約を説明し、「広域的地域づくりのモデル」と位置付けられてきた活動の総括、方向付けなどについて話し合った。席上、村田町長は、「協議会の枠組みがなくなっても工夫した活動を期待したい」と語り、広域的取組みについては「一色小地区の事例は町内他地区にはあてはまらない」との認識を示した。

部会長とのやり取りの中でも、村田町政が作成した町総合戦略下での総括、組織解消以後の町のコミットについて何も語らず、「流れのまま、なすがまま」との姿勢が鮮明になった。

<意見交換の要点は以下の通り>

——現在の部会活動は、消えていくものと残っていく可能性があるものがある。これらの先行きをどう考えるか。あと一つは、一色小学校区という小さな地区を超えた枠組みの中で取り組んできた、こうした広域的取組みの先行きをどうするかについても意見をいただきたい。

村田町長 活動の集大成の時期にコロナ問題に直面したのは残念だが、各部会の活動がこれからどう発展していくか楽しみだ。(協議会の解消によって)枠組みにとらわれることなく、連携したり、変化していくのではないか。

一色の協議会は域内5地区の特徴がかみ合っとうまくいった。これを、二宮の他の地区にあてはめることはできない。この地区の特徴が成果である。そのことを自信をもってアピールして欲しい。衣更えし、次につながるのは大きな意味がある。

——活動終了以降、行政がかかわっていかないとバラバラになり、途切れるものが出てくるが、どう考えるか。

村田町長 ある意味、自由にやったらいいのではないか。

——地域交流部会の場合、一昨年から始まったこうりゅう塾を取り上げても開催回数、参加者数とも相当の結果を出してきた。部会員は今後も継続しようという考えで一致している。

——協議会というプラットフォームがなくなる時、活動の原点、目指したものは何だったのかのかが気になる。現在取り組んでいることは町北部だけの問題なのか。新しいプラットフォームを設け、この地区の経験を全町に広げていくという考え方もある。まったくなくすのはもったいないし、寂しいものがある。これまでの活動を町全体の中で整理し、どう発展させていくか、別な動きを考えていくかが重要だ。

村田町長 わかりました。プラットフォームが問題なのですね。何かしら、つなげたものを作っていくのも一つだと思うが、果たしてどうか——。

——移動支援部会はいろいろ議論してきた結果、試験的な試みに進もうとしている。他地区の事例をみると、このテーマは自治体か社会福祉協議会が手がけるのが一般的だ。

村田町長 大事なテーマだと思う。町の担当課と取り組んだらいい。（*同部会には高齢福祉課長らが参画している）

——再生協議会という組織がなくなると、ほとんどの部会は継続できないだろう。継続させるなら新しいプラットフォームが必要だ。企画管理機能を持つ組織を、町がバックアップする形で残せないものか。6年間の活動を無駄にしたくない。

村田町長 皆さんの関心はプラットフォームということですね。この5年間、自立に向けてやってきた。それがここに来て急に変わったわけではない。新たな要望が出てきたと理解していいですね。

——一色小のコミュニティスクールは、再生協議会というプラットフォームがあったので他地区より進んだという事実がある。この活動のベースを活かしたCSにするつもりだ。

——活動内容を見ると、本来は行政がやるべきものが含まれている。協議会がなくなったら町がやりにくくなる面が出てくる。その辺を考えてサポートできないものか。

——プラットフォームがなくなると、活動がバラバラになるのは必至だ。ここで取り上げてきたのは

一色地区だけの問題ではない。現協議会の名前から、「一色小学校区」を削除して全町的なものに発展させたらどうか。

村田町長 プラットホームという課題が出たことは理解した。

以上